

# 帰国留学生の活動の一例

—メキシコの元日本留学生の会の場合—

永井智香子

## 1. はじめに

日本での留学を終え母国に帰国した元日本留学生たちが集まって組織を作り、さまざまな活動を行っている場合がある。日本で長期にわたって学び、生活し、さまざまな体験をしてきた帰国留学生が母国で日本について語るとき、実体験に基づいたものだけに聞くものをひきつける。また、これから日本留学を目指すものに日本の大学や生活についての有用で的確な情報を与えることもできる。帰国後、元日本留学生が母国と日本をつなぐものとして果たしうる役割は大きい。

筆者は2000年7月24日から9月26日までメキシコに留学する機会を得た。そして、メキシコ滞在中にたまたまメキシコには元日本留学生の会があることを知った。その会について話をきくうちにその組織が非常に活発にユニークな活動を行っていることがわかり、関心を持ち、関係者にインタビューを試みた<sup>1)</sup>。それらの情報をもとに、以下、メキシコの元日本留学生の組織(ASOCIACION MEXICANA DE EXBECARIOS DEL JAPON、以下AMEJと呼ぶ)について報告する。

AMEJの活動は単に日本での経験を共有するために集まるということに留まらない。日本で学んだこと、経験したことなどを最大限に活用し、また、時には他の組織とも協力しながら、さまざまな催し物を企画実行している。

## 2. AMEJの創立とその概要

AMEJの歴史はまだ浅く、創立は1994年である。そのきっかけは元留学生たちが経験を共有するために集まりたい、さらには自分たちが日本で見たり聞いたり学んだりしたことをメキシコ人に伝えたいということだった。

AMEJのメンバーになる唯一の条件は“過去に何らかの奨学金をもらって日本に派遣されていたこと”である。元文部省の国費留学生のみならず、元私費

留学生、企業などから日本に派遣されていた元研修生もメンバーになりうるが、実際にはメンバーのほとんどは元文部省の国費留学生である。過去に文部省の奨学金を得、日本に留学したメキシコ人の数は1998年の報告によると579名である<sup>2)</sup>。そして、2000年8月現在、AMEJのメンバーになっているものは約200名である。

AMEJの運営はメンバー全員の投票により選ばれる9人の幹部により行われる。9人の幹部の任期は2年である。もちろん9人の幹部はボランティアで組織の運営に関する仕事をする。幹部は毎月幹部会を開き、組織の運営について話し合う。さらに、メキシコには元JICA（国際協力事業団）の研修生の組織や、元AOTS（海外技術者研修協会）の研修生の組織があり、これらの組織とどのような助け合いや協力ができるか話しあうために2、3ヶ月に一度合同幹部会を開催している。

また、2ヶ月に一度A4サイズ8ページ程度の会報を発行し、全メンバーに送付する。会報では写真を使った活動の報告と次回の活動の予告がなされるとともにメンバーにより投稿された短いエッセイの掲載やさまざまな活動への参加の呼びかけなどが行われる。メンバーが払う会費は年200ペソ（日本円で約2000円）であるが、そのほとんどが会報の作成と送付に使われるという。

### 3. AMEJの主な活動

結成後まだ年月も浅く、現在はさまざまな試みを行っているところである。今までに行ってきた活動の中で中心となるのはやはり日本滞在中に身につけたさまざまな知識の紹介である。紹介する内容としては日本で学んで来た専門知識はもちろんのこと、日本の生活、文化、子供、学習スタイルなど多岐に及ぶ。メキシコ人にとって日本は遠い国で、非常にたくさんの方が興味をもって催しもの集まるという。以下に具体的に組織がどのような活動を行ってきたのか紹介したい。

#### 3-1 「日本週間」の実施

1996年より毎年場所を変えて「日本週間」を実施している。折り紙や生け花などの日本文化紹介だけにとどまらず、多くの講演を行う。たとえば、日本で医学の博士号をとってきたものは日本の医療について話す。その際には写真、スライド、ビデオなどをふんだんに使う。元教員研修生は日本の教育について

紹介する。この「日本週間」ではJICAの元研修生の組織とAOTSの元研修生の組織にも協力を呼びかけ、それぞれの研修先で学んだことを講演してもらう。2000年度は9月4日から8日までプエブラというところで開かれた。以下にそのプログラムを簡単に紹介する

9月4日

開会式

日本料理紹介

奨学金の紹介（文部省、JICA、AOTS）

日本映画上映

9月5日

元AOTSの研修生による講演1（職場環境をよくするための第一歩）

元AOTSの研修生による講演2

元AOTSの研修生によるワークショップ（トヨタの生産システム）

剣道のデモンストレーション

日本料理紹介

折り紙教室の開催

日本映画上映

9月6日

元JICAの研修生による講演（世界的視野にたったJICAのプロジェクト）

元JICAの研修生によるメキシコにおけるJICAのプロジェクト紹介

日本料理紹介

折り紙教室

日本映画上映

9月7日

元文部省の留学生による講演1（日本における医療教育）

元文部省の留学生による講演2（医療における電子顕微鏡について）

元文部省の留学生によるワークショップ1（日本における構造工学）

元文部省の留学生によるワークショップ1（日本の演劇）

生け花展覧会

日本映画上映

9月8日

元教員研修生による講演 1  
元教員研修生による講演 2  
琴演奏会  
日本映画上映  
閉会式

### 3-2 日本の教育紹介

1996年に教育大学で実施された。主に元教員研修生が「日本の数学の教え方」「コンピュータの教え方」「地理の教え方」など日本の教育についての講演を行った。

### 3-3 平和活動

毎年、広島原爆資料館から日本大使館に送られてくる原爆資料館のポスターの展示を原爆が投下された8月に各地で行う。

### 3-4 親睦旅行の実施

これも発足当時から毎年実施している。毎年、メキシコのさまざまな場所へ旅行する。毎回の参加者はだいたい2、30名とのことである。この旅行の最大の目的はメンバーが親睦を深めることにあるが、ひとつ普通の旅行とは違うところがある。それは行き先にある大学に出向き、そこで、日本についての講演を行い、文部省の奨学金制度についての広報活動を行うことである。

### 3-5 写真コンクールの実施

これは毎年年末に行われる忘年会の中でのイベントの一つとして行われた。全員日本で撮った写真を2枚ずつ持ち寄り、投票により優勝者を決める。城、食べ物、着物とさまざまな写真が持ち寄られたという。因みに優勝した写真は「雪の中の私の誕生日」というタイトルの札幌に滞在していた元留学生の作品だった。このコンクールは非常に好評でこれからも続けていきたいとのことである。

この他、折り紙を教えるために小学校を訪問したり、日本映画の上映会をしたり、在メキシコ日本人女性コーラスグループのコンサートを企画したり、日

本大使館が企画する行事へ協力したり、さまざまな活動の試みが行われている。

#### 4. おわりに

AMEJのメンバーである2人の帰国留学生に「あなたにとって組織の存在はどんな意味をもつか」ときいてみた。すると「文部省から奨学金をもらって、感謝しているから、何か日本のためにやらないといけないと思っています」「日本に関するさまざまな経験を共有できるこの会の存在はありがたいと思っています」という答えがそれぞれかえってきた。この二人の帰国留学生の回答はどのメンバーにも共通する思いであると思われる。そして、この思いこそAMEJが行うさまざまな活動のエネルギー源となっているのであろう。

最後に今回のインタビュー調査においては在メキシコ日本大使館広報文化センターの佐藤靖さんと同広報文化センター秘書のマリア ソリス ゲレラさんに大変お世話になった。ここに深く感謝の意を表したい。

#### 註

- 1) メキシコ日本大使館広報文化センターの秘書でAMEJを担当するマリア ソリス ゲレラさんと元日本留学生へのインタビューを行った。
- 2) 日本大使館所有の資料“ESTADISTICAS DE BECAS OTORGADAS POR JAPON DESDE 1972”を参考にした。この資料はいわゆる大使館推薦で文部省の奨学金を獲得したものの数を示している。

(留学生センター助教授)